■自然賛歌

ていれぎの里

妹尾　治人

今回は、川末川の源流・泉水峠の山間で発見した「ていれぎ」と「深山傍食（ミヤマカタバミ）」に登場してもらう。

民謡伊予節の中に、歌い込まれている松山名物の中の「ていれぎ」とは何んだろうかと、気になっていたところ『それはアブラナ科の大葉種付花（オオバタネツケバナ）のこと』だと関太郎先生から教えてもらった。

【伊予節の第二節】

伊予の松山名物名所
三津の朝市道後の湯
音に名高き五色そうめん
十六日の初ざくら
吉田さんの小杜若（コカキツバタ）
高井の里のていれぎや
紫井戸の片目鮒（カタメブナ）
うすずみ桜や緋の燕（ヒノカブラ）
チョイト伊予絣（イヨガスリ）

私はこれまで、この歌に出て来る「ていれぎ」は、松山の高井の里にしか見られない珍しい植物だろうぐらいに思っていたので、これはオオバタネツケバナだとわかり、早速、図鑑を開いて見ると『全国各地の水の奇麗な山間、渓流沿いに生育している』とあった。

廿日市市では、タネツケバナは水田等に群生しているが、オオバタネツケバナは見られないものと思っていたところ、昨年の春、泉水峠を歩いた時、このオオバタネツケバナを発見した。

1991年から1994年にかけて調査された『廿日市市の生物』の中にも、オオバタネツケバナが生育していることが複数の場所で確認されており、廿日市市にもまだまだ水の奇麗な自然が残されていることを、再発見して嬉しくなった。

オオバタネツケバナは、ワサビやクレソンに近い仲間で、さわやかな辛みがあり山菜として人気のある植物で、サラダや刺身の妻にされる。

ミヤマカタバミは、文字通り深い山に行かないと見られないが、なんと泉水峠でこれを発見した。但し数は極めて少なかった。ミヤマカタバミは、春に三糎程の白い花を付け、よく目立つが花は春だけで、その後は閉鎖花と言って花を咲かせることなく種子が出来て、その種子を勢いよく跳ね飛ばす。

スミレの一部にも閉鎖花を付けるものがあるが、花を付けないで実を結ぶなんて何とも不思議な生態ではある。

「ていれぎ」や、ミヤマカタバミが見られる廿日市市は、豊かな自然が残っている証拠で、このように遠くまで行かなくても珍しい発見が時としてある。

人間は、自然の恵みで生かされていることを自覚し、美しい奇麗な自然を大事に守らなくてはならない。

†天と地の恵みをもらって生きている

自然観察指導員

ていれぎ＝オオバタネツケバナ

ミヤマカタバミ